

「茅ヶ崎80の疑問」回答要旨（例）

栗田尚弥

疑問 「主上陸地点は茅ヶ崎？二宮」→「コロネット作戦とは何ですか？茅ヶ崎との関係は？」に変えてる。

回答要旨

太平洋戦争末期、アメリカ軍は、オリンピック作戦及びコロネット作戦の2作戦からなる日本本土への上陸侵攻を計画していた（ダウンフォール作戦）。

2つの作戦のうち、1945年11月に実施予定のオリンピック作戦は、翌1945（昭和20）46年3月に実施予定の、コロネット作戦を容易にするための事前作戦であった。そして、コロネット作戦は、「日本に無条件降伏をもたらす」ための「とどめの攻撃」と位置付けられていた。

コロネット作戦は、アメリカ太平洋陸軍総司令官ダグラス・マッカーサーを総司令官とし、神奈川県湘南海岸と千葉県九十九里海岸を上陸海岸に想定し、湘南海岸、特に茅ヶ崎海岸（米軍名、チガサキ・ビーチ）を「主上陸地点」としていた。

コロネット作戦には、陸上兵力だけで、120万人弱の兵員が動員されることになっていた。この数字は、「史上最大の作戦」と呼ばれた、1944年6月のノルマンディー上陸作戦を上回るものであった。作戦実施日の1946年の3月1日には、軍艦による艦砲射撃と米陸海軍航空部隊の支援のもと、湘南海岸（茅ヶ崎海岸）に、約30万人、九十九里海岸に、約24万人が上陸する予定であった。また、上陸に際しては、毒ガスサリンを使用することも検討されていた。

疑問 「茅ヶ崎に潜伏していたゾルゲのスパイ」→「ゾルゲ事件と茅ヶ崎のかかわりは？」に変える。

回答要旨

1933（昭和8）年、ソ連赤軍から派遣された秘密諜報員リヒャルト・ゾルゲは、ドイツの新聞記者として、日本の多くの要人に接し、日本政府や日本軍の情報を収集した。ゾルゲが日本国内で組織した国際諜報団の一員で、ゾルゲが収集した情報を赤軍に打電していたのがドイツ人マックス・クラウゼンである。

クラウゼンは、東京の自宅のほか数か所から情報を打電していたが、「海水浴場からほぼ300メートルぐらい離れたところにあった」（クラウゼンの回想）茅ヶ崎海岸に借りた別荘からも打電していた。この別荘には、ゾルゲもしばしばやってきたという。

1941年10月、ゾルゲ諜報団の検挙が始まり、クラウゼンも妻とともに逮捕された。裁判の結果、ゾルゲには死刑判決が出され、太平洋戦争中に処刑された。クラウゼン夫妻は無期懲役の判決を受け獄に投じられたが、戦後GHQ（連合国軍総司令部）によって釈放され、ドイツ（東ドイツ）に帰国し、妻は1978年に、クラウゼン自身は、翌79年に東ベルリンで死去した。

